

まめネット～地域医療ネットワークと病診連携を活用した症例報告ネットでつなげよう、
つながろう！

白石裕子

【目的】へき地離島診療における IT 活用について報告し、医療情報共有を呼びかけ、広めること。

【はじめに】島根県ではまめネットの愛称で地域医療ネットワーク事業にとりくんでいる。2012 年度に各地域への説明や環境整備が行われ、離島にある隠岐島前病院、浦郷診療所でも 2013 年度開始当初から参加し活用している。

【方法】まめネットの概要は医療機関をネットワークでつなぎ、患者の公開と閲覧の同意を得たうえで医療情報を共有するものである。診療所から支援病院や高次医療機関へ患者紹介する際、まず医師が患者に口頭にて説明し、事務員が患者の同意書を作成、インターネット上でネットワーク協会にアクセスし患者登録する。登録が完了すると、紹介当日から患者の経過の詳細を閲覧可能となる。症例報告を通し、活用状況を報告する。

【結果】症例 1 は末梢性めまい等で A 診療所に通院する 80 歳代の男性。激しい嘔吐を伴うめまい発作の主訴で往診、腸閉塞疑いにて B 支援病院へ紹介、緊急検査で大腸がんによる腸閉塞を認め、C 病院へヘリ搬送し治療した。

症例 2 は A 診療所に通院する 80 歳代女性。貧血、便潜血陽性にて B 支援病院紹介、CT にて大腸がんが疑われた。認知症で困難を伴う中、家族の協力のもと説得を繰り返し、大腸内視鏡検査、翌日、別の島の D 病院に紹介、治療した。術後せん妄も見られたが島へ帰り C 病院に入院後改善、数日後に在宅に戻り経過良好である。経過中、患者紹介から経過の状況報告、手術記録や看護記録、返信などの情報共有をネット上で行うことができた。

【考察】患者が多数の医療機関を行き来する際、受け入れ側の手を煩わすことなく医療情報が閲覧できることは、地域の診療所にとり大変有意義であり、逆に高次医療機関から地域の病院診療所に帰る際にも、患者にとってのメリットが大きい。医師から患者への説明が不十分だと感じている患者は多い。がんなど重症例ではなおさらである。しかし地域のかかりつけ医が、高次医療機関におけるカルテ記載、患者への説明内容、検査結果、画像などを閲覧することで、きめ細かく患者に寄り添うことができる。今後の課題としては現時点で参加する医療機関及び患者に限られているである。

【結論】地域医療ネットワークが、今後周知活用されることが望まれる。